



各 位

NPO放送批評懇談会（担当：中島／福島）

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

発表!! 第 57 回ギャラクシー賞

各部門入賞作品、個人賞、特別賞、フロンティア賞、 DJパーソナリティ賞、志賀信夫賞、 マイベストTV賞グランプリ

平素は放送批評懇談会にご理解とご支援をいただきありがとうございます。

テレビ、ラジオ、CMの作品、制作者、関係者に贈る賞として57年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」。

本日、第57回のテレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の入賞作品および、テレビ部門個人賞、特別賞、フロンティア賞、ラジオ部門DJパーソナリティ賞、志賀信夫賞、マイベストTV賞グランプリを、ここに発表いたします。2ページ以降をご覧ください。

なお、各部門の大賞、優秀賞、選奨は、7月2日(木)に当会公式ホームページ、公式YouTubeチャンネルで発表の運びとなりました。

例年であれば、各賞は贈賞式で発表してまいりましたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、贈賞式の開催を延期中のため、ネットでの動画配信による発表という形態といたしました。

7月2日の発表にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行っています。

●過去を受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

志賀信夫賞

樋泉 実

マイベストTV賞 第14回グランプリ

ドラマ24「きのう何食べた？」

テレビ東京 松竹 「きのう何食べた？」製作委員会

テレビ部門

NNNDドキュメント'19「防衛大学校の闇 連鎖した暴力…なぜ」

日本テレビ放送網

NHKスペシャル「日本人と天皇」

日本放送協会

福井テレビ開局50周年記念番組「聖職のゆくえ～働き方改革元年～」

福井テレビジョン放送

ノーナレ「画面の向こうから」

日本放送協会

ウルトラハイパーハードボイルドグルメレポート

テレビ東京

ドラマイズム「スカム」

毎日放送 avex pictures 「スカム」製作委員会

BS1スペシャル「バレエの王子になる！“世界最高峰”ロシア・バレエ学校の青春」

日本放送協会 日本電波ニュース社

モジモジWORLD～ウソのようなフォントの話～

オプテージ (eo光テレビ)

チャンネル4「カネのない宇宙人 閉鎖危機に揺れる野辺山観測所」

テレビ信州

俺の話は長い

日本テレビ放送網 オフィスクレッシェント

大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」

日本放送協会

NNNDドキュメント'20「19人を殺した君と重い障がいのある私の対話」

北日本放送

BSNスペシャル「芸術の価値 舞踊家金森穰16年の闘い」

新潟放送

映像'20「『復興五輪』の陰で東北は…」

毎日放送

特別賞

「ゲゲゲの鬼太郎」テレビアニメ化50周年記念・第6期

フジテレビジョン 読売広告社 東映アニメーション

個人賞

伊藤沙莉

ETV特集「反骨の考古学者 ROKUJI」(NHK)、ドラマ10「これは経費で落ちません!」(NHK)、「ペンション・恋は桃色」(フジテレビ)、「映像研には手を出すな!」(NHK)、「全裸監督」(Netflix)、その他の演技

フロンティア賞

神田伯山ティーピー

冬夏

報道活動部門

やまゆり園事件に関わる、公私にわたる表現活動

RKB毎日放送

播さぶられっ子症候群 (SBS) の検証報道

関西テレビ放送

中海再生への歩み～市民と地域メディアはどう関わったのか～

中海テレビ放送

検証ふるさと納税～手数料10%の衝撃～

東海テレビ放送

キャンペーン報道“用水路事故をなくす”

日本放送協会

ヤジと民主主義～警察が排除するもの～

北海道放送

ラジオ部門

佐藤旬子と板東道生のとなりのラジオ

四国放送

午後ほとことん よろず屋ラジオ「思わず人に話したくなる 元号スペシャル」

福井放送

FMシアター「ドライビング・レコード」

日本放送協会

J-WAVE SELECTION GENERATION TO GENERATION ～STORIES OF OKINAWA～

J-WAVE

オードリーのオールナイトニッポン～むつみ荘から最後の生放送～

ニッポン放送

あなたと見た風景～目の見えない初江さんの春夏秋冬～

青森放送

伊藤史隆のラジオノオト

朝日放送ラジオ

加来耕三が柳川で大河ドラマをつくってみた 超拡大!放送尺22倍SP

RKB毎日放送

DJパーソナリティ賞

爆笑問題

「JUNK爆笑問題カーボーイ」「爆笑問題の日曜サンデー」(TBSラジオ) パーソナリティとして

CM部門

テレビCM

Indeed Ireland Operations Indeed シリーズ「仕事さがしにサーチあれ。」

Indeed Ireland Operations 電通 電通クリエイティブX

カネボウ化粧品 カネボウ/KANEBO シリーズ「I HOPE.」

カネボウ化粧品 電通 ティー・ワイ・オー MONSTER

サントリーホールディングス BOSS シリーズ 宇宙人ジョーンズ「平成特別篇」「老舗篇」「漁港篇」

サントリーホールディングス 連 ワンスカイ 電通 ギークビクチュアス

ジャパンパーク&リゾート 姫路セントラルパーク シリーズ「春夏秋冬」

ジャパンパーク&リゾート 博報堂 RAY

東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット「見えない障害と生きる。」

東海テレビ放送 電通 東北新社

鳥羽水族館 企業「プロフェッショナルがいる」

鳥羽水族館 東海テレビ放送

トヨタ自動車 トヨタタイムズ「豊田社長 車中取材」

トヨタ自動車 電通 AOI Pro.

日本コカ・コーラ コカ・コーラ 自動販売機 シリーズ「笑顔を、ここから。」

日本コカ・コーラ 電通 ティー・ワイ・オー MONSTER

本田技研工業 FIT シリーズ「お披露目篇」「宣言篇」「登場篇」

本田技研工業 電通 ヒラミッドフィルム クリエーティブ・パワー・ユニット

三井住友カード 企業 シリーズ「Thinking Man篇」2話・3話

三井住友カード 電通 TUGBOAT 東北新社

三菱地所 企業「丸の内のラグビー熱」

三菱地所 電通 ビクト

ラジオCM

エバラ食品工業 黄金の味「憧れ篇」

エバラ食品工業 横浜エージェンシー 朝日放送ラジオ ビッグフェイス

パイロットコーポレーション なまえペン「ひどい名前篇」

パイロットコーポレーション 電通 エムアイティギャザリング

●テレビ部門は上記ノミネート14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出されます。●ラジオ部門は上記ノミネート8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出されます。●CM部門は上記ノミネート13本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨9本が選出されます。●報道活動部門は上記ノミネート6本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨3本が選出されます。●最終選考の結果は、7月2日(木)放送批評懇談会公式ホームページ、YouTube公式チャンネルにアップする動画で発表予定です。●テレビ、ラジオのノミネートは放送日順、CMは広告主企業名五十音順、報道活動は申込社(者)名五十音順に記載。●詳しい結果は7月6日(月)発売の「GALAC」2020年8月号に記載いたしますので、ご覧ください。



第 57 回ギャラクシー賞 テレビ部門

委員長 出田幸彦

副委員長 岩根彰子

委員 岩城浩幸 梅田恵子 兼高聖雄 小泉世津子 戸部田誠 西森路代

旗本浩二 福島俊彦 藤岡美玲 細井尚子

今期は応募作品 321 本（上期 156 本、下期 165 本）と月間賞作品 48 本を合わせた計 369 本について厳正な審査と熱い議論を重ね、入賞作品 14 本を決定しました。

内訳はドキュメンタリー9 本、ドラマ 3 本、バラエティ 2 本です。今年も地方発の番組に力作が目立ち、7 本が入賞しました。地域で起こっている具体的な事例を丹念に追いかけて、その背景にある国の政策や行政のあり方、社会の差別・偏見など、日本社会が抱える課題を見事に浮き彫りにしました。ローカル・ジャーナリズム健在です。このほか、改元や東京五輪など日本人にとって節目となる大きなテーマに真正面から向き合う作品にも注目が集まりました。またドラマやバラエティでは今日的なテーマを織り込みながら、新しい手法や演出に果敢に挑戦した作品が高い評価を得ました。（出田幸彦）

テレビ部門入賞作品

作品名と内容解説。以下の 14 本から、大賞 1 本、優秀賞 3 本、選奨 10 本が選出され、7 月 2 日発表されます。

◆NNNドキュメント'19「防衛大学校の間 連鎖した暴力…なぜ」

日本テレビ放送網

防衛大学校で一人の学生・Nさんが暴行を受け、暴力を行った先輩学生、同級生、そして国と防衛大学校を相手に戦うことを選ぶ。番組では、「指導」の名のもとに暴力が見過ごされている現状を追い続けた。

◆NHKスペシャル「日本人と天皇」

日本放送協会

祝賀ムード一色のなか、皇位継承問題を正面から取りあげて異彩を放った。三笠宮直筆の意見書や、皇室典範改正諮問会議で示された側室の子の数など、あまり知られていない事実を明らかにした意義も極めて大きい。

◆福井テレビ開局 50 周年記念番組「聖職のゆくえ～働き方改革元年～」

福井テレビジョン放送

働き方改革元年のタイミングをとらえ、教師の労働環境問題を丹念に取材。50 年近く前に制定された「給特法」を巡る問題点を検証し、法律が現在の教育現場の実態に合わなくなっていることを見事に浮き彫りにした。

◆ノーナレ「画面の向こうから—」

日本放送協会

技能実習生として日本に来たベトナム人たちの証言や SNS を通して、彼らの劣悪な労働環境が生々しく伝わってくる。巧みな番組構成と映像表現によって、外国人技能実習制度の現状と問題点を鋭くあぶり出した。



◆ウルトラハイパー ハードボイルド グルメリポート

テレビ東京

ナイロビのゴミの山で暮らす 18 歳の青年、ポリビアの鉱山で働く 22 歳の炭鉱夫、チョウザメの密漁者と密売人。シリーズ初のゴールデン枠放送でも、過去作と変わらず “飯” を軸にシビアな世界で生きる人々の生活を活写した。

◆ドラマイズム「スカム」

毎日放送 avex pictures 「スカム」製作委員会

オレオレ詐欺に「ガチに就職」した大卒青年の自己実現と破滅。行き詰まりの現代社会と、ダークサイドに取り込まれていく青春の不穏を疾走感あふれるエンタメとして描いた。深夜枠を生かしたバイオレンス描写も巧み。

◆BS 1スペシャル「バレエの王子になる！ “世界最高峰” ロシア・バレエ学校の青春」

日本放送協会 日本電波ニュース社

ロシア最古のバレエ学校、世界最高峰の「ワガノワ・バレエ・アカデミー」で学ぶ国籍も能力・属性も異なる男子 4 人の卒業までの 90 日間。透明感のある映像でバレエという芸術と現代の若者を描きだした気品ある作品。

◆モジモジ WORLD～ウソのようなフォントの話～

オプテージ

本や雑誌、テレビ画面のテロップや街角の看板など、いつでもどこでも目に入る「文字」について、フォントという視点から魅力を再発見していく教養バラエティ。フォント制作の現場や書体を与える影響などきめ細かい取材が活きていた。

◆チャンネル 4 「カネのない宇宙人 閉鎖危機に揺れる野辺山観測所」

テレビ信州

閉鎖の危機に直面する野辺山宇宙電波観測所の 1 年に密着。経済的利益を重視する国からの交付金が減り、予算増額のために軍事技術の研究が求められてしまう。日本における基礎研究の現状と課題を浮き彫りにした。

◆俺の話は長い

日本テレビ放送網 オフィスクレッシェンド

尻理屈を武器に実家に居座る 31 歳ニートと、ワケあって転がり込んできた姉一家。3 カ月の共同生活が、手詰まりだったそれぞれの人生を動かしていく。30 分 2 本立ての挑戦に、テンポのいい会話劇がはまったホームドラマ。

◆大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」

日本放送協会

日本人初のオリンピック選手・金栗四三と東京オリンピック招致の立役者・田畑政治。この 2 人の人生を軸に、日本初参加のストックホルム五輪から 1964 年の東京オリンピック開催までの 52 年間を描いた平成最後の大河ドラマ。

◆NNNドキュメント' 20 「19 人を殺した君と重い障がいのある私の対話」

北日本放送

相模原の施設で重度障害者らを殺傷した植松聖被告への判決が下される前夜の放送。被告と接見した障害者の男性が、劣った者を排除する「優生思想」が、被告だけでなく社会全体に広がっている現実に警鐘を鳴らした。



◆BSNスペシャル「芸術の価値 舞踊家金森穰 16 年の闘い」

新潟放送

新潟市民芸術文化会館専属のコンテンポラリーダンス集団「Noism(ノイズム)」の活動を芸術監督である舞踊家・金森穰を中心に追う。芸術の価値を行政はどうとらえるのか。奇しくもコロナ禍のもとで重要な問題提起ともなった。

◆映像'20「『復興五輪』の陰で東北は…」

毎日放送

震災復興の象徴とされる東京五輪だが、開催決定により被災地では資材が高騰、建築業者は人手不足に陥る一方、莫大な予算が現場の実情とはかけ離れた分野に投じられる。“復興”の欺瞞を多方面から鋭く伝えた。

テレビ部門特別賞

「ゲゲゲの鬼太郎」テレビアニメ化 50 周年記念・第 6 期

フジテレビジョン

50 年以上にわたり 6 回もアニメ化されたことは、テレビ史に残るできごとです。周年を記念して制作された第 6 期も、2 年間放送され、支持を得ました。新たなサブキャラクターの登場や、主人公たちの設定の見直しなど、原作を現代社会にあわせる表現上のさまざまな工夫もすばらしく、なによりも登場する妖怪たちの基本設定は原作そのまま。社会や時代は変わっても、人間社会が抱えている闇や怖さは、水木しげる原作時代と同じ、普遍的なのだということを教えてくれました。日曜の朝にターゲットである子どもたちに向けて丁寧にメッセージを送ることに徹底して作られています。それが多くの人たちの共感を呼ぶ。テレビアニメのあるべき仕事だといえます。

テレビ部門個人賞

伊藤沙莉

「映像研には手を出すな！」(NHK)、ドラマ 10「これは経費で落ちません！」(NHK)、「ペンション・恋は桃色」(フジテレビ)、「全裸監督」(Netflix)、ETV 特集 「反骨の考古学者 ROKUJI」(NHK) その他の演技

これまでも多くのドラマで印象的な役を演じてきた伊藤沙莉さんですが、アニメ「映像研には手を出すな！」では特徴的なハスキーボイスを活かし、浅草みどりというキャラクターの魅力を最大限に引き出す見事な「声」の演技を見せてくれました。

「これは経費で落ちません！」では、彼女のはまり役のひとつとも言える、ヒロインをときに振り回し、ときに支える職場の同僚役を好演。「ペンション・恋は桃色」で演じた父親と二人でペンションを営む娘・ハル役の、わかりやすく喜怒哀楽を表に出すのではなく、ふとした表情で気持ちの揺れを伝える豊かな感情表現も見事でした。

「全裸監督」での AV 撮影現場で紅一点として働くメイクさん役、ドキュメンタリー作品「反骨の考古





学者 ROKUJI」のドラマパートでの好演など、出演する作品をきりりと引き締めるスパイス的な役どころも印象に残ります。主役・脇役のどちらもこなせる貴重な存在感に敬意を表します。

テレビ部門フロンティア賞

「神田伯山ティービィー」

冬夏

「神田伯山ティービィー」は、2020年2月真打昇進を機に大名跡を襲名した神田松之丞改め神田伯山が「何としても講談の面白さを知ってもらいたい」と立ち上げたYouTubeチャンネルです。襲名披露パーティから披露興行まで、口上や高座の映像だけでなく楽屋の風景までもが臨場感たっぷりに編集され、約1ヶ月間リポート動画として、興行の翌日に毎日配信されました。撮影は芸人仲間の落語家たち。芸人同士だからこそ撮れる楽屋での芸人たちの姿は茶目っ気たっぷり。これまでテレビや寄席の現場では知ることができなかった寄席演芸の世界を魅力的に伝え、貴重な記録映像となっています。現在チャンネル登録者数は12万9千人、ユニーク視聴者数は126万人にのぼり、講談界に新風を吹き込む新しい映像コンテンツとして注目されています。

第 57 回ギャラクシー賞 ラジオ部門

委員長 五井千鶴子

副委員長 川喜田尚

委員 今村和夫 掛原雅行 茅原良平 黄 莉香 小林浩子 仲宇佐ゆり 松浦正和
迎 康子 本村 隆 山田真嗣

4月17日すべての都道府県に緊急事態宣言が発出され、ギャラクシー賞下期応募作品の締切が数日ではありますが延長されました。各社に在宅勤務がひろがり、応募のための事務作業が遅れているとの連絡が多数寄せられたことによる措置でした。しかしながら、上期45本、下期43本、計88本の作品の応募をいただき、昨年より9本の増加となりました。通期のカテゴリー別では、生ワイド22本、音楽・エンタテインメント31本、ドラマ11本、報道・ドキュメンタリー24本でした。

応募作品は百花繚乱。傾聴に値する番組のオンパレードでした。特筆すべきは、コミュニティFM局からの応募が増えたことです。惜しくも選には漏れましたが、地域の特質を生かした数々の番組は、制作レベルの向上が一段と進んで選奨委員の共感を呼びました。また、生ワイドの応募作品には地方の頑張り、エネルギーを強く感じ取りました。自粛要請でステイホームを余儀なくされているいま、ラジオの存在価値が高まっています。選考会では議論を尽くした結果、第57回ギャラクシー賞ラジオ部門の入賞作品として、力作8作品を選定しました。
(五井千鶴子)

ラジオ部門入賞作品

作品名と内容解説。以下の8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出され、7月2日発表されます。



◆佐藤句子と板東道生のとなりのラジオ

四国放送

曜日別のパーソナリティが担当する午後の生ワイド。リスナーとのコミュニケーションが豊富で、絶妙な距離感や間合いの上手さが伝わってくる。地域の人々が集うローカル生ワイドのモデルと言える番組である。

◆午後はとことん よろず屋ラジオ「思わず人に話したくなる 元号スペシャル」

福井放送

大化から令和まで思わず人に話したくなる元号のエピソードが満載で、歴史好きに限らず多くのリスナーの知的好奇心をくすぐる生ワイドである。元号と地元のゆかりを探るラジオカーの中継もあり、全編楽しく学べる。

◆FMシアター「ドライビング・レコード」

日本放送協会

死の前日に車を走らせ続けた若き天才女流画家。その死の真相を突き止めようと 3 人の男女が彼女の車で 1 年後の同じ時間にナビに残されたルートを辿る。実力派俳優たちの台詞が胸に響くミステリー仕立てのドラマ。

◆J-WAVE SELECTION GENERATION TO GENERATION～STORIES OF OKINAWA～

J-WAVE

戦後の沖縄で米軍ラジオ局の日本語アナウンサーとなった川平朝清の歩みを、息子のジョン・カピラが訊く。終戦直後から本土復帰、今の沖縄への思いにまで話を広げている。6 月 23 日の「慰霊の日」に放送された。

◆オードリーのオールナイトニッポン～むつみ荘から最後の生放送～

ニッポン放送

オードリーの春日俊彰が長年住んだ「むつみ荘」から予告なしで生放送し、相方の若林正恭と一対一で延々と交わす駆け出しの頃の思い出に話が弾んだ。どこか懐かしさのある深夜放送の本質が詰まった放送回である。

◆あなたと見た風景～目の見えない初江さんの春夏秋冬～

青森放送

視覚障害者が作るラジオ番組を 30 年以上担当してきた内田初江さんが引退、その後の生活を追った作品。雪国青森の冬など晴眼者（目の見える人）では窺い知れない視覚障害者の日常を丹念に描いた。

◆伊藤史隆のラジオノオト

朝日放送ラジオ

その時々旬な話題に音楽とテーマトークをバランスよく構成した生ワイドである。番組のハイライトは、「ラグビートップリーグSDGsマッチ」に視覚障害を持つリスナーを招待する企画。試合の熱狂と感動を伝えた。

◆加来耕三が柳川で大河ドラマをつくってみた 超拡大！放送尺 22 倍 SP

RKB毎日放送

戦国武将・立花宗茂を主人公とした大河ドラマ招致活動の応援番組。知られざる宗茂の人物像の紹介、ゆかりの地からの中継、パロディドラマなどラジオの特性を活かした手法で表現し、娯楽性豊かな教養番組に昇華させた。



ラジオ部門DJパーソナリティ賞

爆笑問題

「JUNK 爆笑問題カーボーイ」「爆笑問題の日曜サンデー」(TBSラジオ)
パーソナリティとして



「爆笑問題カーボーイ」「爆笑問題の日曜サンデー」を長年にわたりほぼ休むことなく毎週放送を続け、ラジオでもその確固たる存在感を示しています。ラジオで全国の番組を聴き、自身の番組で話題にして各地のパーソナリティと交流を深めるなど、SNSが隆盛の時代にラジオの場だけで大きな輪を作り上げ、ラジオに新しい広がりを生み出しました。

太田光はリスナーからのハガキやメールをおもしろおかしく巧みに紹介し、書籍や映画、芸能などに関するトークでは知的好奇心をくすぐります。また、時に長尺で語る現代社会への考えはラジオならではの、聴き応えがあります。田中裕二の素で飾らない反応や感情表現、時に太田以上にヒートアップする姿もコンビとして絶妙です。

若い頃から「表現」への挑戦を続けてきた太田、アナウンサーになることが夢だった田中の二人が、これからもラジオの場で発信を続け、ラジオに貢献してくれることを期待します。

第 57 回ギャラクシー賞 CM部門

委員長 服部千恵子

副委員長 汲田亜紀子

委員 家田利一 泉 綾子 風間恵美子 国枝智樹 島崎英雄 鈴木武人 鈴木ゆかり

野上信子 星野 裕 本庄雅之 山口菜穂美

第 57 回ギャラクシー賞CM部門は、上期 166 本、下期 161 本、計 327 本の応募をいただきました。テレビCMが 204 本、ラジオCMが 123 本。昨年度に比べて 45 本応募が増加しました。選考会は新型コロナウイルスの緊急事態宣言発出のなか、初めてオンライン会議で行われました。上期 13 本に加えて下期 13 本を選考し、その中から入賞作品を選考しました。応募期間は令和元年～2 年。新しい時代への意欲や問題提起を感じる、バラエティに富んだ作品が応募されました。粒ぞろいの作品の中から、13 名のCM委員による投票と討議を重ねた結果、次の 13 本を入賞作品に決定いたしました。

(服部千恵子)

CM部門入賞作品

作品名と内容解説。以下の 13 本から、大賞 1 本、優秀賞 3 本、選奨 9 本が選出され、7 月 2 日発表されます。



【テレビCM】

◆Indeed Ireland Operations Indeed シリーズ「仕事さがしにサーチあれ。」

Indeed Ireland Operations 電通 電通クリエイティブ X

『幸せなら手をたたこう』が「仕事さがしは Indeed」になったのは 2017 年からである。斎藤工を主軸にしたCMが始まり一気に認知を獲得。今回は、名優らの興味深い会話とドラマでサービスをリアルに描いた名作である。

◆カネボウ化粧品 カネボウ/KANEBO シリーズ「I HOPE.」

カネボウ化粧品 電通 ティー・ワイ・オー MONSTER

モノクロからカラーへ変化するシンプルでシャープな映像が圧倒的に目を引く。モデル、ダンサーらが、女性性を超えた内面からの美しさを訴えて、時代を映し出した。かつて起用した『唇よ、熱く君を語れ』の編曲が秀逸だ。

◆サントリーホールディングス BOSS シリーズ 宇宙人ジョーンズ「平成特別篇」「老舗篇」「漁港篇」

サントリーホールディングス 連 ワンスカイ 電通 ギークピクチャーズ

平成を振り返る特別編集版と令和になっての新作 2 本。「働き方改革」で平成は幕を閉じたが、汗をかき身体を張って働く人のそばに居続けたボスならではの「労働」への愛が懐かしいアルバムのように心に染みってくる。

◆ジャパンパーク&リゾート 姫路セントラルパーク シリーズ「春夏秋冬」

ジャパンパーク&リゾート 博報堂 RAY

調査すると大阪から「すごく遠い」と誤解されている。自慢のプールは知名度たった 10%。で「日本一、心の距離が遠い」というフレーズが泣かせる。でも、このCM効果で来場者が増えた。自虐に溢れ、逆説的で面白いCM。

◆東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット「見えない障害と生きる。」

東海テレビ放送 電通 東北新社

片付けられない。実は文字が読めない。周囲の音が聞こえすぎる。完璧にしないと気が済まない。そういう障害は意外と知られていない。そこに着目して障害と取り組んだ力作。障害を糧にラッパーになった若者の歌も強い。

◆鳥羽水族館 企業「プロフェッショナルがいる」

鳥羽水族館 東海テレビ放送

ユーモラスな水族館CMだ。捌いたイカの耳をガラスに向けて投げつける飼育員。見事に張り付くイカ耳。ジャンプしてイカ耳を上手にキャッチするラッコ。飼育員さんもラッコもプロフェッショナルという視点がいい。

◆トヨタ自動車 トヨタタイムズ「豊田社長 車中取材」

トヨタ自動車 電通 AOI Pro.

トヨタの掲げる「モビリティカンパニー」の真実を伝えるために香川照之編集長はテストコースで豊田章男社長に直撃取材を敢行する。ダイナミックに見せながらも社長の人間味をチャーミングに垣間見せた手法が見事である。

◆日本コカ・コーラ コカ・コーラ 自動販売機 シリーズ「笑顔を、ここから。」

日本コカ・コーラ 電通 ティー・ワイ・オー MONSTER

自販機という無機質な構造物の周りがある 4 つのストーリーを、見事なヒューマンドラマで描いてみせた。とりわけ「世



界一のカフェ篇」は、映画のワンシーンのように風景と女子高生の心情が溶け込んで、強く心に響いた。

◆**本田技研工業 FIT シリーズ「お披露目篇」「宣言篇」「登場篇」**

本田技研工業 電通 ピラミッドフィルム クリエーティブ・パワー・ユニット

20 年目を迎える FIT が、コンパクトカーの価値基準の転換に挑戦。速さ、広さ、効率、装備などのスペックを誇るのではなく、やさしさや、心地よさをほっこり伝え、クルマのCM表現の新たな地平を拓いた。

◆**三井住友カード 企業 シリーズ「Thinking Man 篇」2 話・3 話**

三井住友カード 電通 TUGBOAT 東北新社

小栗旬がお金の本質について、自問自答するシリーズCM。その問いかけは、キャッシュレス社会の入口に立つ視聴者へのメッセージでもある。おとぎ話のような物語のなかで、新しい時代を生きるヒントが提示されていく。

◆**三菱地所 企業「丸の内のラグビー熱」**

三菱地所 電通 ピクト

お洒落な街・丸の内を舞台に、シェフがスイカをパスしながら運んだり、スクラムを組みながら名刺交換をしたり、ラグビーの盛り上がりをコミカルに表現。単にラグビーを登場させただけではない捻りのきいた作品。

【ラジオCM】

◆**エバラ食品工業 黄金の味「憧れ篇」**

エバラ食品工業 横浜エージェンシー 朝日放送ラジオ ビッグフェイス

言葉を省略して表現しがちな関西人。標準語の約 3 分の 1 の文字量の関西弁で伝えてしまう。そのことを後輩に事例で紹介しつつ、エバラ焼肉のたれ黄金の味もまた約 3 分の 1 がリングゴで旨味たっぷりであることを伝えた。

◆**パイロットコーポレーション なまえペン「ひどい名前篇」**

パイロットコーポレーション 電通 エムアイティギャザリング

哀愁漂う曲を背景に、謎が多い生命体だから「ハテナ」、よだれ掛けに似ているから「ヨダレカケ」など、実在する生き物の衝撃的な名前とその由来が次々と紹介され、最後、人間にはいい名前がある、と締めくくる。

第 57 回ギャラクシー賞 報道活動部門

委員長 丹羽美之

副委員長 市村 元

委員 小川邦雄 河野尚行 櫻井 要 関 美礼 中村正敏

原 真 桧山珠美 古川柳子 松山秀明

ギャラクシー賞報道活動部門は、持続的な調査報道、キャンペーン報道、ネットや出版と連動した新しい展開など、「番組」の枠組みに収まりきれない一連の「報道活動」を丸ごと評価することを目的としています。放送批評懇談会の創立 40 周年に当たる 2002 年に創設され、今回で 18 回目を迎えました。



2019 年度の同部門には、上期 7 本、下期 26 本、計 33 本の応募がありました。今回も、NHK、民放キー局・ローカル局、ケーブルテレビ局など、全国各地から多種多様な取り組みが寄せられました。選考会はコロナ禍で初のオンライン開催となりましたが、厳正に議論を重ねた結果、6 本の入賞作を決定しました。入賞作以外にも、朝日放送テレビ「震災アーカイブプロジェクト」、中国放送「原爆小頭症 55 年にわたる継続取材」、北日本放送「KNBブックレポート」など、ユニークかつ優れた報道活動が数多くあり、例年になく激戦となりました。(丹羽美之)

報道活動部門入賞作品

作品名と内容解説。以下の 6 本から、大賞 1 本、優秀賞 2 本、選奨 3 本が選出され、7 月 2 日発表されます。

◆やまゆり園事件に関わる、公私にわたる表現活動

RKB 毎日放送

障害者の父親である記者が、拘置所の植松聖被告に何度も接見し、活字・SNS・ラジオ・テレビで問い続けた活動。「事件は特殊な人間が起こした特殊な事件ではない」との総括が説得力を持っている。

◆揺さぶられっ子症候群（SBS）の検証報道

関西テレビ放送

揺さぶられっ子症候群（SBS）との診断による冤罪の可能性をいち早く指摘。加害者とされた側に加え、児童虐待の専門家からも取材し、冤罪と虐待をなくすという二つの正義が衝突する問題の構造を明示した優れた調査報道だ。

◆中海再生への歩み～市民と地域メディアはどう関わったのか～

中海テレビ放送

番組「中海物語」を 2001 年から継続し、中海について多角的に報道する一方で、住民や企業、自治体と共に湖岸清掃や啓発活動など「中海再生プロジェクト」を進めて「泳げる中海」を実現。地域の環境改善に貢献した。

◆検証ふるさと納税～手数料 10%の衝撃～

東海テレビ放送

放送区域内の全市町村アンケートで、ふるさと納税の寄付額の約 1 割がポータルサイトに支払われている事実を明らかに。地場産でない返礼品で稼ぐ店や直営サイトを作る市などを多角的に取材、総務省の規制につなげた。

◆キャンペーン報道“用水路事故をなくす”

日本放送協会

用水路転落事故についてデータを収集、警察庁統計に比べ死者は 3 倍、けが人は 260 倍にのぼる実態を明らかにした。また浅くて細い用水路で死亡事故が起きるメカニズムを分析、一連の報道は富山県の対策本部設置を促した。

◆ヤジと民主主義～警察が排除するもの～

北海道放送

安倍首相の街頭演説にヤジなどで抗議の意志を示した人々を排除し付け回した警察の過剰警備問題を粘り強く報道。小さな権利迫害も大きな圧力に通じかねないという危機感が支えた地道な報道活動。



放送批評懇談会 第 11 回志賀信夫賞

樋泉 実 北海道大学客員教授・電通総研フェロー・北海道テレビ相談役

志賀信夫賞選考委員会

委員長 音 好宏 選考委員 橋本 隆 藤田真文 川喜田 尚 丹羽美之

「志賀信夫賞」は、当会創設メンバーである志賀信夫の長年にわたる放送批評活動の功績を記念して創設されました。番組制作に留まらず、放送局やプロダクションの経営、業界の新たな仕組み作りなど幅広い業績を対象に、広く放送文化、放送事業の発展に顕著な貢献をした個人を顕彰することが目的です。慎重かつ多角的な討議を重ねた結果、第 11 回志賀信夫賞に樋泉実氏を選出しました。

<選評>

樋泉実さんは、北海道テレビにあって、「地域」を事業設計の基点に置き、ローカル民放局にとっては向かい風となりがちなメディア環境の変化を、智恵と勇気で追い風に変え、ローカル民放事業の可能性を提示し続けられました。

その典型が、北海道という放送エリアの枠を飛び出し、海外の人々に、映像コンテンツによって「アジアに際立つ北海道」をアピールする道を切り拓いたことです。映像コンテンツの発信を呼び水に、北海道をアジア有数の観光拠点に発展させることに成功した背景に、樋泉さんの汗があったことは明らかです。他方、データ放送の活用や地域新聞社との連携、地域医療情報の提供など、次々と放送メディアを基点とした新たなサービスの可能性を模索。その卓越した発想力、行動力から、「地域第一主義」を軸にしながらも、積極的に事業展開を進めるローカル民放経営の一つの姿を示し続けました。

<樋泉実プロフィール>

といずみ・みのる 1949 年山梨県生まれ。1972 年慶応義塾大学文学部卒業、北海道テレビ放送入社。メディア企画室長、取締役メディア企画センター長、専務取締役デジタル推進担当などを経て、2011 年 6 月代表取締役社長に就任。14 年 6 月～16 年 5 月、日本民間放送連盟副会長。18 年 10 月北海道テレビ放送取締役相談役、19 年 6 月同相談役。現在、北海道大学産学・地域協働推進機構客員教授。電通総研フェロー。19 年 12 月旭日中綬章受章。

■志賀信夫賞過去の受賞者／肩書は当時

第 1 回 澤田隆治さん（日本映像事業協会会長）、第 2 回 後藤亘さん（エフエム東京取締役相談役、東京メトロポリタンテレビジョン代表取締役会長）、第 3 回 植村伴次郎さん（東北新社最高顧問）、第 4 回 藤田潔さん（ビデオプロモーション名誉会長）／TBS『調査情報』、第 5 回 石井ふく子さん（テレビプロデューサー）、第 6 回 松尾羊一さん（放送評論家）、第 7 回 山本雅弘さん（毎日放送最高顧問）、第 8 回 西村泰重さん（J:COM初代社長）、第 9 回 川端和治さん（弁護士、BPO放送倫理検証委員会前委員長）、第 10 回 今野勉さん（テレビマンユニオン最高顧問）



テレビ マイベストTV賞グランプリ

マイベストTV賞 第14回グランプリ

ドラマ 24 「きのう何食べた？」

テレビ東京 松竹 「きのう何食べた？」製作委員会

視聴者の評価、満足や感動の気持ちを、投票によって形にしたマイベストTV賞。第14回のグランプリに輝いたのは、テレビ東京のドラマ 24「きのう何食べた?」。ゲイカップルのごく普通の生活を丹念に描き、毎回登場する絶品の家庭料理もスパイスになり、仕事や社会生活に疲れた視聴者の心を癒してくれました。西島秀俊と内野聖陽の主人公ふたりの演技も、とても自然で好感を持たれました。投票では「ゲイのカップルの日常を丁寧に描くことで、人生や家族の意味を浮かび上がらせた佳品」「ゆる～い感じが好き。役者が巧かった」「毎回作る料理が楽しく、コストパフォーマンスが良く時短のレシピとしてドラマとダブルで楽しめた」など、視聴者の賞賛の声が数多く寄せられました。

解説

グランプリは、2019年4月度から2020年3月度まで投票によって毎月決められたノミネート作36本の中から、最大5本までを投票するという方法で決められた。グランプリに選ばれたのは、テレビ東京のドラマ24「きのう何食べた?」(上記参照)。第2位はTBSテレビの日曜劇場「ノーサイド・ゲーム」。“ブームに先駆けてオンエア。ワールドカップの本番前に下地を作ってくれた” “池井戸節を堪能できた。NHKにも真似ができないTBSの真骨頂を發揮した” など、タイミングの良さと物語の盛り上がり評価する声を多く集めた。第3位はNHKのドラマ10「これは経費で落ちません!」。“経理という地味なポジションが魅力的に見えた” “このテーマでここまで人間臭くできるという驚き” など、経理という職業の描き方に高い評価が集まった。

最終投票結果

第1位	ドラマ 24 「きのう何食べた？」(テレビ東京)	103 票
第2位	日曜劇場 「ノーサイド・ゲーム」(TBSテレビ)	82 票
第3位	ドラマ 10 「これは経費で落ちません!」(NHK)	77 票
第4位	金曜ドラマ 「凧のお暇」(TBSテレビ)	73 票
第5位	日曜劇場 「グランメゾン東京」(TBSテレビ)	66 票
第5位	ドラマ 24 「コタキ兄弟と四苦八苦」(テレビ東京)	66 票
第7位	NHK スペシャル 「全貌二・二六事件～最高機密文書で迫る～」(NHK)	57 票
第8位	俺の話は長い(日本テレビ)	55 票
第9位	NHKスペシャル 「“パンデミック”との闘い～感染拡大は封じ込められるか～」(NHK)	51 票
第10位	火曜ドラマ 「わたし、定時で帰ります。」(TBSテレビ)	48 票



ギャラクシー賞の概要

◆歴史および概要◆

1963年、放送草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は年度単位。

「ギャラクシー」とは、天の川、銀河という訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持つ。放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そして初代のトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって賞の名に選ばれた。ギャラクシー賞は第50回（2013年）を記念してトロフィーを一新。松永真デザインの「バードマン」が新しい賞のシンボルとなった。

◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会（毎月）が開催され、月間賞が選出されている。他部門も定例会を持ち番組・作品を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎやらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。

放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。審査は、年2回（上期・下期）、エントリー作品を受け付けて行う。上期・下期で選出された作品を対象に年間の最終選考がおこなわれ、各賞を決定する。

表彰式は、毎年5月下旬～6月初旬に行われる。受賞者には、トロフィーと表彰状が授与される。



◆賞の内容◆

【テレビ部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 10、特別賞 1、個人賞 1、フロンティア賞 1

【ラジオ部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 4、個人賞またはDJパーソナリティ賞 1

【CM部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 9

【報道活動部門】大賞 1、優秀賞 2、選奨 3

【その他】志賀信夫賞 1、マイベストTV賞グランプリ 1

<志賀信夫賞>

放送批評懇談会の発展に寄与した放送評論家・志賀信夫の功績をたたえるために、2010年（第47回）創設。広く放送界の発展、放送文化の向上に貢献した人物等を表彰する。放送批評懇談会正会員の推薦を元に選出する。

<マイベストTV賞>

視聴者の参加により選ばれるテレビ番組賞で、2007年（第44回）創設。放送批評懇談会選奨事業委員会が候補番組を選定し、これを毎月、放送批評懇談会正会員と「Gメンバー」（視聴者によって構成される放送批評懇談会のオンライン会員）が投票して選出される。年間で最も得票を得たものが「マイベストTV賞グランプリ」として表彰される。

上記のほか、周年には記念賞を設ける場合がある。

◆沿革◆

1963年度（表彰は1964年）ギャラクシー賞誕生、第1回。

1989年度 第27回、ラジオ部門独立。

1993年度 第31回、ラジオ部門にDJパーソナリティ賞新設。

1995年度 第33回、CM部門設立。

2002年度 第40回、報道活動部門設立。

2006年度 第44回、視聴者が選考に参加する「マイベストTV賞」を新設。

2009年度 第47回、「志賀信夫賞」を新設。

2015年度 第53回、テレビ部門にテレビの新しいチャレンジを応援する「フロンティア賞」を新設。